第112号
あらかわ区報Jr.
ジュニア
ArakawaKuhoJunior
平成29年11/20
発行　荒川区●23,000部発行
〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 ☎(3802)3111

「読書の秋」
さあ、図書館へ出かけよう

新しい発見や知識、感動との出会いをもたらしてくれる読書。そんな読書をサポートするのが図書館です。今号では、荒川区立図書館で行われている読書の楽しみをより豊かに広げるさまざまな活動や、思いがけない一冊に出会える便利なサービスを紹介します。

問合せ　ゆいの森あらかわ ☎(3891)4349／地域図書館課 ☎内線436

▲図書館で見つけた本を熱心に読む、第一中学校1年生のジュニア記者。左から、松浦穂哉くん、松見音花さん、宋浩謙くん、杉木美咲さん

はかせ

読書の楽しみ方は人それぞれじゃ。ワクワクする物語が読みたい。知識と教養を身につけたい。あるいは歴史や外国のことを知りたくて本を手に取る人もおるじゃろう。そうした読書体験を通じて、わしらは広い世界を知ることができるんじゃ。感性と創造力を高め、考える力や豊かな心を養うことができるんじゃよ。みんなが素晴らしい本に出会って、読書の面白さを味わえるよう、荒川区の各図書館ではジュニア世代のためのサービスを充実させておる。地域の身近な図書館を気軽に利用して「読書の秋」を思いきり楽しもう。

あらかわ区報 Jr. は荒川区ホームページでご覧になれます。
https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kusei/koho/koho/arakawakuhojr/index.html

次は12月に発行する予定です

命の大切さを学んだぞ

まちぞう

赤ちゃんが学校に来てくれたよ！ 尾久西小学校５年生 ～親子学習会～

９月９日、尾久西小学校で５年生親子学習会が行われました。「命の授業」をテーマに、荒川区の助産師による講義や妊婦さん体験、赤ちゃんとのふれあいで命の尊さ、大切さを学びました。

妊婦さん体験では、歩くだけでも大変に感じることや落し物を拾おうとしゃがむことができないことなどを実感しました。また、赤ちゃんとのふれあいでは、ハイハイやつかまり立ちする赤ちゃんを目の前に、慣れない手つきで赤ちゃんを抱っこしたり、あやしたりと楽しんだ様子でした。普段はできない貴重な体験ができた学習会でした。

▲▶「かわいいね」赤ちゃんを抱っこしたりおもちゃで遊んだり楽しくふれあいました

◀真剣な表情で「命の尊さ」について考えました

懐かしいあの日あの時 想い出写真館

あらみぃ あら坊

No.40 昭和31年ごろの移動図書館

荒川区に初めて図書館が誕生したのは昭和13年、当時は“東京市立”荒川図書館でした。その後、昭和25年“荒川区立”となりました。昭和47年の尾久図書館開館まで、区内の図書館は１館だったので、移動図書館が活躍。写真は、南千住地域に来ていた移動図書館です。

▶移動図書館には多くの子どもが集まっていました

お気に入りの本に出会える！ 図書館をもっと楽しむ方法

本の簡単な探し方、読書を楽しむアイデアなど、図書館には便利さと面白さがいっぱい。サービスを知って上手に役立てよう。

図書館の魅力を紹介するよ！

すみちゃん

あっくん

手軽で簡単！ 本の探し方

図書館でお目当ての一冊を探す時、ぜひ活用したいのが検索機。タイトルや著者名など、わかっている情報をキーボードで打ち込むと、本の資料番号やどの書架にあるかなど、情報を記したレシートが印刷されます。それを見れば、目的の本と簡単に出会えます。たとえば、スポーツ、音楽、ファンタジーなどのイメージやキーワードだけで関連する本を探したり、貸出中の本を予約しておくこともできます。もちろん、図書館の司書さんに直接聞いても大丈夫。読みたい本を探してくれます。手間をかけず上手に探して、読書を楽しみましょう。

簡単に本が探せるね

▲「図書館の検索機を使うのは初めて」タイトルを打ち込むだけで、本のある場所がわかりました

▶レシートには本の貸出状況なども印刷されています

「図書館通帳」に読んだ記録を貯めてみよう！

どんどん記録を貯めたくなるね！

▶本を借りた日付、本のタイトル、著者名が通帳に印字されます

▼「あっという間にできたよ！」自分の図書館通帳を作るだけで、いろいろな本を読みたくなるね

▶表紙は、あら坊とあらみぃのかわいいデザイン

本を借りる時、日付やタイトルを印字できる図書館通帳。区内の小・中学生は、無料で作ることができます。

必要なものは区立図書館の図書カードだけ。「読書履歴記帳機」を画面案内に従って操作すれば、その場でできあがり。次からは、図書カードを使わず、図書館通帳だけで記帳することができます。

自分で本の評価をつける欄もあるので、読んだ後に記入しておくと、お気に入りの一冊をすぐに思い出すことができます。

面白い本を友だちと紹介し合ったり、記録を見返して好きな本をもう一度読み直すなど、読書の楽しみが広がります。

10代向けの楽しい企画が充実！ TEENsコーナー

図書館では、ティーンズ（10代の人たち）向けにおすすめ本の紹介や、推薦書のブックリスト「図書館員の太鼓ボン」、読書情報誌「べら」を配布しています。また、夏と冬にティーンズ向けのイベントも実施しており、公募で集まった区内の中学生が“ティーンズスタッフ”としてイベントの企画などに関わっています。

興味のある本がきっと見つかるよ

▲10代向けの本を探すならＴＥＥＮｓコーナーへ！おすすめ本や調べ学習に役立つ本の見つけ方を教えてもらいました

▲本選びの参考になる「図書館員の太鼓ボン」は２年に１度、「べら」は毎月作成しています

意外に知らない図書館の賢い利用法

今回の取材では、検索機で本を探す方法や、司書さんに探している本を見つけてもらう方法、読書を楽しくするサービスなど、意外と知らない図書館の機能を、ゆいの森課ゆいの森サービス係の森奈穂子さんに伺いました。ティーンズコーナーには、おすすめ本の紹介など、面白い本に出会う工夫がいっぱい。借りた本を記録する図書館通帳も作ってみました。「使ったことのないサービスばかり！」「すごいね」とジュニア記者。図書館の便利なサービスを活用すればもっと読書を楽しめるので、みんなも気軽に図書館を利用しよう。

図書館ってこんなに便利！

まっち

各図書館でお気に入りの１冊を見つけよう！

各図書館では、スタッフが皆さんにおすすめの本を紹介するために、趣向を凝らしたコーナーを設置しています。お気に入りの一冊を見つけてください。

◆尾久図書館 ☎(3800) 5821

▲落語や狂言、相撲など日本の文化に関する本を「LOVE日本」として紹介しています。知らない世界に出会えるかも

◆町屋図書館 ☎(3892) 9821

▲「日本の和と伝統」というテーマで、関連本をピックアップ。待の切り絵が並ぶ本棚はかわいい装飾で、目を引きます

◆南千住図書館 ☎(3807) 9221

▲南千住が松尾芭蕉の奥の細道の矢立初めの地であることから松尾芭蕉関連の俳句コーナーを開設。俳句関連資料が充実しています

◆ゆいの森あらかわ ☎(3891) 4349

▲皆さんに読んでもらいたい絵本もたくさん

▶特設コーナーでは、時期に合わせたさまざまなテーマで本を紹介しています

●日暮里図書館は、現在、改修工事のため休館しています。平成30年４月20日まで、日暮里ひろば館に臨時窓口を開いています

学校訪問

学校自慢

大門小学校

町屋4－27－8

学校の自慢を児童が紹介します

◀きょうだい班で行った全校遠足

大門小学校は、創立93周年の歴史ある学校です。そんな大門小学校の自慢を二つ伝えたいと思います。

一つ目は、大門小学校は、一クラスしかないので、みんなの仲がとてもよいことです。「きょうだい班」という活動があり、一緒に全校遠足へ行ったり、夏休みの作品を紹介し合ったり、花の苗や種を植える活動をしたりと、上の子が下の子の面倒を見ながら、協力しながら過ごしています。他学年の子の名前も覚えているので、全校児童が本当の家族のように、仲良く過ごしています。

二つ目は、特別支援学級の「のぎく学級」があることです。1年生から6年生まで13名が一緒に生活する学級で、助け合いながら毎日勉強をしています。私たちとも、交流があり休み時間に遊び、社会科見学や遠足、移動教室など学年の行事などで一緒に行動しています。また、運動会でも練習から本番まで一緒に演技し、協力して生活しているので、応援にも力が入ります。

このように、大門小学校は、みんなで楽しく過ごせる素敵な学校です。ぜひ遊びに来てください。お待ちしています。

執筆　6年　伊藤　心菜

◀のぎく学級のみんなと参加した連合運動会

部活動

原中学校

町屋5－12－6

生徒が部活動を紹介します

美術部

▶アイディアやアドバイスをし合いながら制作しています

私たち原中学校美術部は、男子7人、女子12人の19人で週3回活動しています。

活動内容は、ひとりひとりの興味に合わせて工夫しています。例えば、本で見つけた写真や自分で撮った写真、モチーフなどを絵の具や木炭などで描いています。絵だけではなく粘土や伝統工芸のつまみ細工など人それぞれです。やることが違っていてもみんなでアイディアを出し合いながら協力して活動しています。学校行事の案内掲示は部員全員で分担して制作しています。

作りたいもの、描きたいものがあっても材料が揃わなかったり乾かさないといけなかったりと1日でやれる作業に限りがあるため、完成までに時間がかかりますが完成した時の喜びも大きいです。

美術部は静かで暗いイメージを持つ人が多いかもしれません。しかし原中の美術部はそんなイメージを崩してしまうくらい明るく、美術室の中はいつでもアイディアやアドバイスを出し合う声でいっぱいでとてもよい雰囲気です。

今後も特徴をいかしてよりよい部活・作品をつくっていきたいです。

執筆　2年　牧野　翔和

◀無心で磨いて、つるつるにするのが目標です！

瑞光小学校の児童がキンボール韓国代表選手と交流

東京で開催された「キンボールスポーツワールドカップ」開会式前日の10月30日、荒川総合スポーツセンターで、キンボールスポーツ韓国代表選手と瑞光小学校児童との交流会が行われました。韓国代表選手によるキンボール教室では、見事なプレーを目の当たりにし、児童は大きな歓声を上げていました。また、6年生の代表選手と韓国選手との交流試合では、回りからの声援を受けながら、韓国選手に対し真剣な表情で立ち向かっていました。

▼国の代表選手と対戦でき貴重な経験になりました

▲交流式典で児童に声をかける西川区長

防災部活動レポート

第九中学校

赤土小学校永久水利施設送水訓練　10月29日

赤土小学校内に井戸水を活用した永久水利施設が完成し、第九中学校防災部が送水訓練に参加。ポンプの操作や防火水槽への貯水、放水実施など、地元町会の方たちと一緒に訓練を行いました。

▲あいにくの天候でしたが、町会や消防の方たちと一緒に一生懸命活動しました

あらかわ今昔ものがたり

あらかわの歴史と伝説

その112　日ぐらしの里の小さな神様たち・三十番神

あらかわの名所といえば、「日ぐらしの里」（西日暮里三丁目）が有名だね。雪見寺（浄光寺）、月見寺（本行寺）、花見寺（修性院・青雲寺・妙隆寺）等の素敵なお寺が沢山あって、四季の景色が楽しめる日帰りスポットとして知られていたんだ。

描かれた日ぐらしの里

人気の「日ぐらしの里」は、浮世絵にもたくさん描かれている。あまり知られていないけど、そのほとんどが、日蓮宗のお寺、修性院を描いたものだったんだよ。

じゃあ、ここで改めて、歌川広重さんが描いた浮世絵「日暮里寺院の林泉」をじっくり見てみよう。桜が咲くきれいな春の風景だね。「林泉」というのは美しいお庭という意味なんだ。この絵を見ると、枝垂れ桜、船の形をした植木、築山の上の石碑、谷中七福神の一つ布袋様の堂、それと奥にある大きな屋根の建物等が目につくよね。このような修性院の景色は「日ぐらしの里」をタイトルにした浮世絵に良く描かれているんだ。

▶日暮里寺院の林泉（荒川ふるさと文化館蔵）

大きな屋根は三十番神堂

ところで、あの大きな屋根の建物は、何なのかな？　実はね、あれは小さな神様の像を納めるためのお堂なんだ。何と中には熱田、諏訪、伊勢、八幡、稲荷等の30の神様がお祀りされていたんだよ。神様たちは、一月30日、毎日交代で「法華経」という日蓮宗でとても大事なお経をお守りする役目を果たした。だから「三十番神」と呼ぶんだよ。

区登録文化財の三十番神

でも、お堂は、明治時代になってから壊されて、三十番神は奥にしまわれ、長い眠りに付いたんだよ。平成13年に発見された時には、とても傷んでいたけど、修性院の歴史を伝える大切な像として、平成25年に今のように修理されたんだよ。

修性院の三十番神は御雛様のように可愛らしいお姿をしているけど、今から約300年以上前に作られた文化財なんだ。

今、荒川ふるさと文化館の企画展「下町の名宝展」（12月3日まで）で展示されているよ。みんなで見に来てね！

▲荒川区登録文化財・木造三十番神坐像（修性院蔵）

【訂正】9月号の「あらかわ今昔ものがたり」の3段目、見出し「月を見に川に乗る」は「月を見に川に行く」に訂正します。

問合せ　荒川ふるさと文化館　☎（3807）9234

古紙配合率70%再生紙を使用しています。